

桜

日本には公式に定められた国花はないようです。日本の皇室を象徴する花は菊ですが、国民に最も愛されているのは桜の方が勝るのではないのでしょうか。桜の開花時期になると、毎年ニュースで桜前線が予想されたり、桜の名所を案内する特集が組まれたりすることや、桜をモチーフにした歌や芸術作品が昔からたくさんあることはそれを物語っています。

桜の色は、一般的に白色から濃い桃色まであります。花卉の数も、ソメイヨシノのような五枚のものから、十枚以上の花卉を持つ八重桜まで色々あります。桜の開花時期は、品種や地域によって違いますが、一月から五月にかけて気候の暖かい沖縄から徐々に北海道まで北上していきます。標高の高いところでは七月に咲く桜もあり、年に二回、春と秋に花を咲かせる品種もあります。四月の上旬頃に咲く代表的な品種のソメイヨシノの見頃は、満開前後の一週間程度しかなく、その美しさもさることながら、日本人は桜のすぐ散ってしまう儂さ、そして潔さに心を捕らわれるようです。風で数多くの花卉が舞い散る桜吹雪は風情に満ちていて、言いようのない物寂しい気分にさせてくれます。これも日本独特の美意識の表れの一つではないでしょうか。

一斉に咲きこぼれる桜は、春の到来を告げる風物詩になっています。その春の訪れを祝う日本古来の慣習の一つになっているのが桜の花を鑑賞する花見です。花見の歴史は奈良時代に遡りますが、その風習が広く庶民に広まっていったのは江戸時代だとされています。桜の木の下で花を眺めるのみならず、家族や友人、同僚と大人数で花見弁当やお酒を楽しむ宴会を開くこともあります。花見の時に食べる花見団子は三色の組み合わせが一般的で、桜色は春を表し、白は雪が残っている早春という意味があり、そして、緑は芽吹く植物を表すそうです。「花より団子」という花見団子に由来する諺があるのですが、花を觀賞する風流よりも実益を重んじるこ

との例えです。夜きれいにライトアップされた桜を見ることは夜桜見物と言よざくらけんぶつい、
昼間とはまた違ひるまう表情ひょうじょうを見せる桜が堪能たんのうできます。

今では、桜は平和へいわのシンボルとして海外かいがいに贈おくられることがあります。日本にほんに近隣きんりん
する韓国かんこくや中国ちゅうごくだけではなく、アメリカやヨーロッパ、世界の色々な国で春毎ごとに美
しい桜を満喫まんきつできるようになりました。そんな桜に託たくされた願かないが叶かなうように、
我々われわれ一人一人ができることから世界の真しんの平和じつげんが実現とくするために取とり組くみましょ
う。